

展示している主な資料と紹介する遺跡

1. 旧石器時代・縄文時代

山之内遺跡(住吉区) ナイフ形石器(旧石器時代)、有茎尖頭器(縄文時代草創期)、石鏃(縄文時代)

2. 古代から中世へ

難波宮跡附法円坂遺跡(中央区) パネル展示  
西中島7丁目所在遺跡B地点(淀川区) 瓦器椀・皿、中国産白磁碗・輪花皿・端反皿、軽石、砥石

3. 中世の暮らしと祈り

浪速東遺跡(浪速区) 柿経、備前焼播鉢、播磨型土師器鍋、東播系須恵器こね鉢、中国産青磁碗(同安窯)、瓦質土器播鉢・羽釜、瓦器椀、土錘

四天王寺旧境内遺跡(天王寺区) 土師器皿・耳皿・壺、京都系土師器皿、大和系瓦質土器火鉢・風炉、瓦質土器三足釜、中国産青磁碗・皿・蓋、中国産白磁合子蓋・端反皿、ベトナム陶器蓋、軒平瓦(「四天王寺」)、風字硯

大道1丁目所在遺跡(天王寺区) 京都系土師器皿、瓦質土器羽釜・鍋・播鉢、大和系瓦質土器火鉢、備前焼播鉢、東播系須恵器片口鉢、瀬戸美濃陶器香炉・おろし皿、常滑焼甕・片口鉢、中国産青磁碗(龍泉窯)、滑石製石鍋、鞆羽口

津守廃寺(住吉区) 中国産白磁小杯・皿、中国産青磁碗・皿、備前焼播鉢、丹波焼播鉢、鬼瓦、鯨瓦、土錘

野田城跡伝承地(福島区) 播磨系土師器鍋、瓦質土器羽釜、丹波焼大平鉢、中国産青磁皿、焙烙、椀形埴、被熱した壁材、土錘、砥石、元祐通宝、無文銭

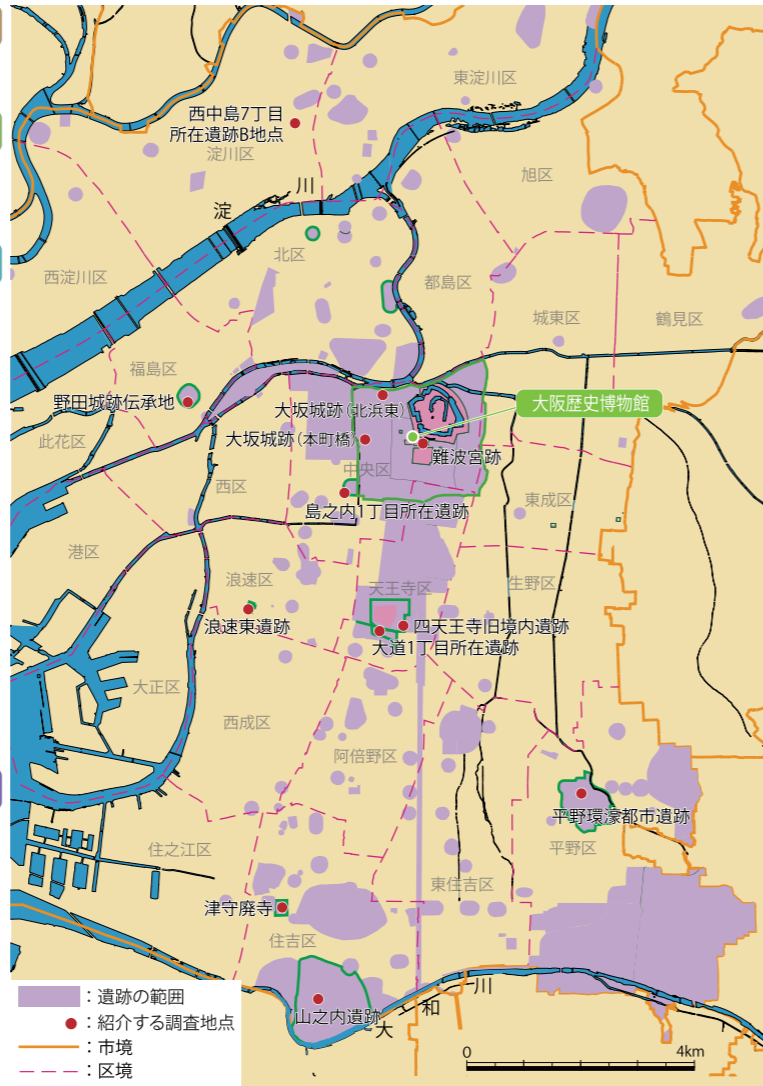
4. 近世の都市とその周辺

大坂城跡(中央区:北浜東) 瀬戸美濃焼陶器天目碗・志野向付、中国産青花皿・碗、朝鮮半島産白磁皿

大坂城跡(中央区:本町橋) 備前焼水指、瀬戸美濃焼陶器天目碗・茶入・茶入(瓢形)・蓋・志野鉢、肥前陶器水指・片口鉢、高取焼茶入、中国産白磁香炉

島之内1丁目所在遺跡(中央区) 硯製作過程石材、埴塙、鞆羽口

平野環濠都市遺跡(平野区) 肥前磁器小杯(紅猪口)・染付皿・蓋付鉢・広東碗、肥前陶器器手碗・二彩刷毛目大皿、瀬戸美濃焼磁器染付端反碗、関西系磁器染付広東碗、関西系陶器灯明皿・受皿、中国産磁器青花鉢・皿、焙烙、土製玩具、芥子面子、面模、硯



※出品資料はすべて大阪市教育委員会蔵

講演会「大阪の歴史を掘る2023」

展示で取り上げた大阪市内の発掘調査の成果を紹介し、新たな発見やさまざまな発見についてお伝えします。また、大阪公立大学教授 仁木 宏氏をお招きし、戦国時代大坂の都市の様子と歴史的意義についてお話しいたします。

- 1) 平田 洋司 (一般財団法人 大阪市文化財協会 学芸員)  
「大阪市内の発掘調査成果—令和4年度を中心に—」
- 2) 仁木 宏 氏 (大阪公立大学 教授)  
「戦国都市大坂—本願寺寺内町と周辺都市の発展—」

【日 時】 令和5年11月5日(日)午後1時30分～午後4時30分(受付:午後1時～)

【会 場】 大阪歴史博物館 4階 講堂

【定 員】 250名(インターネットによる事前申込)

【参加費】 800円

【主 催】 大阪歴史博物館・(一財)大阪市文化財協会



https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/02m0xdar82831.html

展示解説

学芸員が展示資料や見所について、わかりやすく解説します。

【日 時】 令和5年10月7日(土)、11月3日(金・祝)、12月3日(日)  
令和6年1月6日(土)

※いずれも午後2時から30分程度

【担 当】 杉本 厚典(大阪歴史博物館 学芸員) 10月7日・11月3日  
清水 和明(大阪市文化財協会 学芸員) 12月3日  
小田木 富慈美(大阪市文化財協会 学芸員) 1月6日

【会 場】 大阪歴史博物館 8階 特集展示室

【参加費】 無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要です)

【参加方法】 当日直接会場へお越し下さい



〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32  
電話 06-6946-5728 FAX 06-6946-2662  
https://www.osakamushis.jp/

特集展示「新発見!なにわの考古学2023」

会 期: 令和5年10月4日(水)～令和6年1月8日(月・祝)  
会 場: 大阪歴史博物館 8階 特集展示室  
展示担当: 杉本厚典(大阪歴史博物館)・小田木富慈美・清水和明(大阪市文化財協会)

開館時間: 午前9時30分～午後5時  
※ただし入館は閉館30分前まで

休 館 日: 火曜日・年末年始(12月28日～1月4日)

観 覧 料: 常設展観覧料でご覧いただけます。  
大 人 600円(540円)  
高校生・大学生 400円(360円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明証提示)、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料



電車・バスでお越しの方  
Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②・③号出口  
大阪シティバス「馬場町」バス停前

特集展示

Recent Archaeological Discoveries in Osaka, 2023

新発見!  
なにわの考古学

令和5年 10.4 水曜日 ▶ 令和6年 1.8 月曜日・祝日 2023



主催: 大阪歴史博物館・(一財)大阪市文化財協会

浪速東遺跡(浪速区)出土の中世の柿経

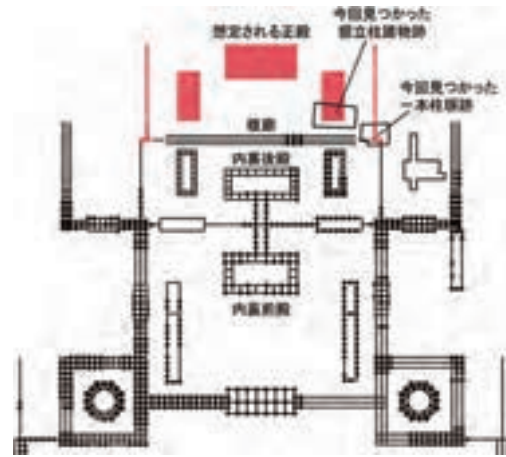
# 1. 旧石器時代・縄文時代

山之内遺跡では打製石器とその材料が出土しました。サヌカイト製のナイフ形石器(後期旧石器時代)、有茎尖頭器(縄文時代草創期)、石鏃(縄文時代前～中期頃)は狩猟の道具です。気候や自然環境によって棲息する動物は変化し、狩猟の道具もそれに適した形に変わっていきます。先史時代の狩猟具の変遷を一つの調査地で追うことができる興味深い調査成果です。

ナイフ形石器(1・2)・有茎尖頭器(3)・石鏃(4～6)・剥片(7～12) 山之内遺跡(住吉区)



# 2. 古代から中世へ



前期難波宮内裏中心部の大型掘立柱建物 7世紀中葉 史跡難波宮跡附法円坂遺跡(中央区)

史跡難波宮跡附法円坂遺跡の調査では、飛鳥時代、前期難波宮(7世紀中葉)の天皇の住まいである内裏中心部に、梁間3間で四面に庇を持った大型で格式の高い建物があることがわかりました。配置などから難波宮中軸線上に想定される正殿と組み合う東脇殿と考えられます。

JR新大阪駅のすぐ南西、西中島7丁目所在遺跡B地点では古代から中世にかけての建物や井戸等の跡がわかりました。平安時代後期(11世紀後葉～12世紀前半)の建物は、三～四面に庇を持つとみられる格式の高いものでした。調査地は中世の宮原荘や宮原南荘の推定地付近にあり、荘園の成り立ちや暮らしを知る大きな手がかりです。

# 3. 中世の暮らしと祈り



柿経の出土した水路 13～15世紀 浪速東遺跡(浪速区)

鎌倉時代から室町・戦国時代にかけて紛争が多発した大坂ですが、考古資料からは農地の拡大、手工業生産や流通の発達、仏教の浸透などがうかがえます。

浪速東遺跡では鎌倉時代に開発が始まりました。排水路を掘り、海の名残の潟湖を農地化していたようです。この水路から20枚の柿経(表紙写真)が出土しました。功德を積むために、柿と呼ばれる薄板に阿弥陀を写経したもので、当時、写経会が流行していたことがわかります。

四天王寺旧境内遺跡では寺院の東側が調査され、多くの井戸や土採り穴がわかりました。四天王寺では西門付近が門前町として栄えたことが知られますが、寺院東側にも居住地が広がり、四天王寺の周囲に人口の密集する都市的な景観が生まれていた可能性が示されました。



掘立柱建物と流路 11世紀後葉～12世紀前半 西中島7丁目所在遺跡B地点(淀川区)



中国産白磁合子蓋 13世紀前葉 四天王寺旧境内遺跡(天王寺区)



埋納された土師器皿 15世紀前半 四天王寺旧境内遺跡(天王寺区)

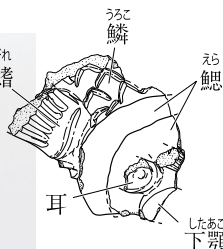
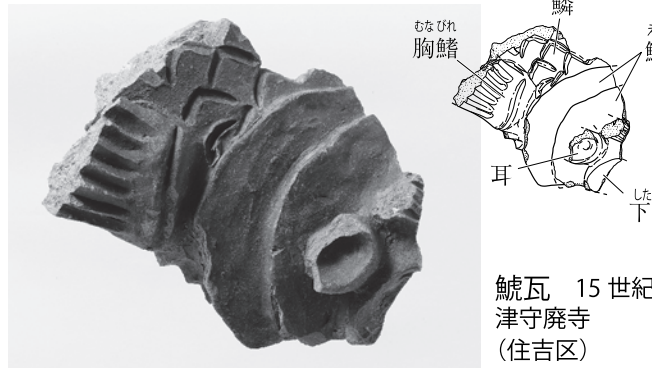


中世の井戸、ごみ穴(断面) 15世紀 大道1丁目所在遺跡(天王寺区)

大道1丁目所在遺跡は四天王寺の南にあり、室町時代(15世紀)の井戸やごみ穴等がわかりました。韃の羽口や鉄滓が出土しており、金属製品の生産が行われていたようです。

津守廃寺は白鳳期(7世紀後半～8世紀初頭)の創建といわれる寺院です。今回の調査では中世寺院に関すると思われる溝がわかりました。溝からは多くの瓦が出土し、それらの中には中世にはまだ珍しかった鯨瓦も含まれていました。

野田城跡伝承地は淀川河口の低湿地にあります。16～17世紀前葉にはたびたび戦乱の舞台となりました。今回の調査では15世紀に湿地の上に盛土して農地開発が始まり、やがて農業だけでなく漁業も営まれたことがわかりました。中世集落の生業が多様であったことを示す良い事例です。



鯨瓦 15世紀 津守廃寺(住吉区)



シジミの貝殻を棄てた穴 15世紀 野田城跡伝承地(福島区)

# 4. 近世の都市とその周辺

近世の大坂では、大坂城を取り囲むように武家屋敷が置かれました。中央区北浜東の調査では、大坂城に三の丸を増設するための盛土がわかりました(大坂町中屋敷替え)。盛土の上下では豊臣前期(16世紀後葉)と豊臣後期(1615年の大坂夏の陣で焼失)の礎石建物がそれぞれわかりました。

また、中央区本町橋の調査では、江戸時代初め(17世紀前半)の茶道具がわかりました。同時代の絵図からは付近に大坂代官や紀州藩、小堀遠州家に関わる屋敷があったと知られ、出土資料はまさに当時の武士たちの間で流行した「きれいさび」と呼ばれるシンプルで上品な茶の湯の器でした。

大坂城周辺に広がる城下町には町屋が建ち並び、様々な職業の町人が住んでいました。住友銅吹所の南西、島之内1丁目所在遺跡では、17世紀後葉の硯加工に伴う石くず、銅を溶かした坩堝、鍛冶に使う韃の送風管に取付ける羽口がわかり、近くにこれらの職人が住んでいたことがわかりました。

大坂の南東にあつて環濠を巡らせた平野郷町(平野環濠都市遺跡)は、江戸時代中頃までは水運を利用した物流拠点で、19世紀中頃の人口は七千人余りでした。北側の環濠近くの旧「市町」では、19世紀の町屋のごみ穴から陶磁器などが出土しました。



豊臣前期の礎石建物 16世紀後葉 大坂城跡(中央区)



武家屋敷の茶道具 17世紀前半 大坂城跡(中央区)